



# 全日本プロバス協議会

## ひろば

### 第1号(2019年1月元旦号)

目次	(以下敬称略)
2	会長新年挨拶 会長 古賀 靖子
3	第8回総会三重で開催 前幹事長 森山 功
4～6	交流の輪広がる式典・懇親会 三重大会実行委員長 鈴木 史郎
7～15	理事就任の抱負 山内和夫 川端崇且 島村吉三久 松本忠 竹原英作 熊本國勝 中村善隆 馬場康博 田中正子 須郷隆 中村昭夫 岩城孝子 正親睦弘 立川龍雄 小丸隆 田口隆夫 高田知昭 内富烈 伊藤雅敏 山中利雄
16～19	退任理事のご挨拶 中村實 立川富美代 森山功 松尾正 永勝龍子 今西良雄
20	会員クラブからのお知らせ ▽奈良プロバスクラブが創立5周年 ▽近畿ブロックが交流会開催
21～23	事務局だより ▽全日本協議会顧問に3名を委嘱 ▽賛助会員を募集します ▽今後の主なスケジュール ▽全日本協議会の事務局発足 ▽事務局からのお願い
24	あとがき

(表紙の題字「ひろば」は古賀靖子会長揮毫)

## 会長新年挨拶



### 新年あけまして おめでとうございます

会長 古賀 靖子

新年明けましておめでとうございます。

皆様には穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年は平成が終わり、文字通り新しい時代を迎えます。皆様方のプロバスクラブにとりましても、さらなる発展の年となりますよう祈っております。

さて、全日本プロバス協議会は平成16年5月に創立し、8年間は関西に、平成24年から6年間は関東に本部が置かれて活動してきました。この14年間で全日本プロバス協議会の基盤が確立されてきたといっても過言ではありません。

昨年11月28日の第8回全日本プロバス協議会総会・三重大会で私たちの新執行部がスタートしたばかりですが、全国の会員クラブの活性化と交流の拡大を目指し、今年度はまずメール通信の活用や全日本プロバス協議会の「ひろば」等の発信を通じて、全国のクラブ間の連携を密にし、風通しのよい状況にしていきたいと考えています。

また、皆様ご存知のように、全

日本プロバス協議会の財政は、平成30年度まで総収入は年間約16万円(1クラブ3千円/年)が基本になっています。これでは何も出来ません。そこで、財政基盤の強化のため、会則の改正で年会費1万円への値上げと賛助会員制度の創設を皆様にお願いましたが、窮状をご理解の上、ご協力をよろしくお願いたします。

最後になりましたが、昨年11月に退任されました会長中村實様(在任4年)、幹事長森山功様(在任6年)には、二人三脚で全国のクラブの催事に精力的にご参加、ご指導を頂きましたこと、また副会長立川富美代様には、創立以来16年にわたり副会長の任を全うされましたこと、それに協議会発展のために貴重なご意見、ご提案等を賜りました理事の皆様方に、敬意と感謝を申し上げます。

新執行部では新しい年にふさわしい、

総意と工夫に満ちた運営をしていきたい、皆様方には引き続き諸事でご協力下さいますようお願いいたします。





## 全日本プロバス協議会第8回総会 三重で開催

古賀靖子新体制発足 成功の裏に三重県5クラブの強い団結



新年あけましておめでとうございます。古賀会長、松本幹事長(いずれも

北九州)を核とする新執行部が平成 30年11月28日、三重県四日市都ホテルで開催された第8回総会・三重大会で承認され発足しました。「八とは開く義」と申します、正にこの第8回を境に、新元号と軌を一にする全く新しく生まれ変わる全日本プロバス協議会の新鮮な鼓動が聞こえて参ります。

この第8回総会の成功の裏には、並々ならぬ三重県の5クラブの強い団結がありました。実行委員会の開催は10数回に及び全てを“手作り、手弁当”を合言葉に取り組みました。途中、鈴木史郎実行委員長が病に倒れ川合一明氏が代行を務めるハプニングもありましたが、四日市南を中心に伊勢はまゆう、松阪鈴、鈴鹿西、九華の三重県内5クラブの会員が総出で役員や歓迎イベント出演に取り組みました。

前幹事長 森山 功(横濱)

思えば平成29年2月第1回実行委員会には森正宏、藤原早子、松村勝順、海住幸松、長田芳樹、鈴木史郎、川合一明、今尾雅博、松尾正の各氏10名が集い、実行委員長に鈴木、代表幹事に松尾、事務局長に川合氏が選ばれ準備が始まりました。これらの陰の献身的な支えから見事なハーモニーが醸し出され、上々の雰囲気で開催を迎える事が出来、それが鈴木三重県知事、松村四日市南ロータリー会長様の過分なお褒めの言葉を頂く結果に繋がったと思います。

また地元の偉人・本居宣長についての本居宣長記念館館長吉田氏から記念講演があり、北部九州の一角を担う壱岐プロバスクラブの竹田頼正会長の活動報告が新出発に花を添える事が出来ました。

次回は五所川原市での青森大会

次回は「第9回総会・青森大会」と銘打ち五所川原市での開催が決まりました。全国津々浦々から集われた皆様に感謝申し上げ、2年後元気な姿で集い合いましょう。

## 交流の輪広がる 式典、懇談会

大会スローガンに「美し国、みえで プロビアン交流の輪 もっとひろがれ!」と「みんなが主役! みんなが脇役!」を掲げた三重大会。三重県内の5つのプロバスクラブが実行委員会を組織、心を一つにして取り組み、文字通り、プロビアン交流の輪が広がった。



挨拶する中村前会長

ご来賓の皆様



挨拶する古賀新会長



ご当地相撲甚句



木遣り

混声合唱



総踊り



功労者への感謝状贈呈



次回開催地ご挨拶



鈴木実行委員長

### 三重大会を振り返って

三重大会実行委員会 委員長 鈴木 史郎  
委員 一同

三重県内の、鈴鹿西、伊勢はまゆう、四日市南、松阪鈴、九華(くわな)の5クラブがスクラムを組んで、全日本の大会を運営するという前例のないチャレンジは、多くの試練とそれとは比較にならないほどの大きな実りを与えてくれました。

どのようにすれば地方の特色が出せるか？ 真の「おもてなし」とは何か？ 何度も検討を加えて得た結論は「手作り」「身の丈に合わせて」「今後活かせるトライ」の3点でした。

そこで考え出されたのが、出来るかぎり多くの会員の出番がある歓迎イベントの企画であり三重の5クラブの全員参加によって、全国から集う仲間をみんなでもてなす工夫をすることでした。この想いは、当日の200名を超えるプロビアンの方々の談笑と、大きな拍手をいただいたことによって、結実されたと信じています。

インターネットを活用した告知にもトライしましたし、皆さんからお預かりした参加費と協議会およびロータリークラブの協賛金のみで賄うこともできました。そして何より大きな実りは、三重の5クラブの結びつきが従来より遥かに強くなったことで、これからの新しい展開を拓けることにつながるものだと実感しています。

ところで、全国からお集まりくださった皆さまは、充分楽しんでいただけましたか？ 新しい仲間づくりや、交流の輪を広げることに、私たちはお役にたてたのでしょうか？ 晩秋の伊勢路を旅されたのでしょうか？ 私たちが感じている充実感より、はるかに少なくとも全国の仲間の皆さんが「良かったな」と思っていて下さることを念じながら、感謝の挨拶といたします。ありがとうございました!!



盛んな名刺交換も



歓談が続く



美味しい料理が並ぶ



## 参加プロバスクラブと参加者（敬称略）

**[北海道]**▼旭川(山内和夫、馬場康博、山添信男、山添みずほ、柿坂由紀子、鶴渕康子、山内砂奈美)

**[東北]**▼五所川原(松山栄一、田中正子、島村吉三久)▼福島(平野正弘)

**[関東]**▼埼玉浮き城(大久保毅、鈴木民儀、鴨田武、野原正次郎、澤田良一、渡邊栄一、須郷隆、小山博)

**[東京]**▼八王子(立川富美代、飯田富美子)▼多摩(澤雄二、中村昭夫、秋山正仁、滝川益男、滝川道子、伊藤健一)▼日野(後藤一郎)

**[神奈川]**▼横濱(岩城孝子、大久保武、岡部正久、荻原慎吾、小野寺あい子、加藤道子、加藤豊、小磯智功、關尚記、関口尚親、ダニエル山田、東野操、富永和夫、中村實、樋口健太郎、松下尚雄、松原孝明、宮川清彦、持田久次、森山功)▼鎌倉(正親睦弘、武智昭、石井邦夫)▼横浜グリーン(田中正平、安藤修一、佐藤玄太郎、萩原瑞己、寺尾三樹男、青木永子)

**[新潟]**▼新潟(立川龍雄)

**[石川]**▼松任(赤沢与章、油省三、鏑木久美、北川邦昭、小丸隆、中村義造、宮西實、山瀬普吾)

**[三重]**▼鈴鹿西(長田芳樹、田口隆夫、福井章子、南部武司、竹内弘、水上義人、草野靖生、田中均、山鹿昇、喜田久仁廣、辻野佳規、仲村義昌、杉野泰彦、大石幸生、高橋重子、杉原敏明、西城薫、谷口茂、河原清、早川勝彦、衣斐朋子、森脇南海子)▼伊勢はまゆう(森正宏、藤原早子、中村祐子昭、石原貞夫、坂倉成見、杉ひろ子、山本勇、鳥羽瑛子、内田久恵、馬瀬里子、古森克彦)▼四日市南(野呂義啓、杉原啓二、伊藤章、田川ちえ子、鈴木史郎、高野健、松田賢治、三日市存、西谷昇、森逸郎、久保和子、林多己郎、田村尚彦、平岡暉啓、石井弘子、植木京子、宇佐美幸義、佐藤充弘、近藤正徳、金城健二、川合一明、山本均、伊藤八峯、山下正文、伊藤吉訓、井上敏博、高村さち子、寺本佐利、高橋典夫)▼松阪鈴(田中一如、御堂武二、石橋正俊、磯田保、岡田晃三、小倉喜久治、小田邦雄、海住幸松、小嶋博司、小林壽一、高岡庸治、中村眞沙子、西村保男、西山正剛、松井恭子、松田敬八、宮村従子、松村勝順、渡辺和己)▼三重・九華(松尾正、下田美智代、伊藤順子、金森三雄、田中聡子、小川満美、武村美恵子、今尾雅博、小川亘、柿昌代、山本佐知子、葛山恵美子、石田恵子)

**[中部]**▼大垣(北村章、清水雄二)

**[近畿]**▼京都(村瀬太一、波多野宏之)▼大阪(福岡稔也、浅山起久子、川土居長慶、川端崇旦、有村正己、伊丹谷五郎、西宮富夫)▼堺(堀内幸子、青木定治、青木和子、紀寺佳代)▼奈良(熊本國勝、大西良則、久保田実雄、里井義治)▼びわ湖(河本英典、井上和正、笹田昌孝、香川晃一、芦田重信、岩田守広、寺本章仁)▼淡路(高田和昭)▼尼崎(永勝龍子)▼姫路南(岡本浩一)

**[中国]**▼徳山(内富烈)

**[北部九州]**▼北九州(古賀靖子、竹原英作、松本忠、中山正英、安高洋一、松永光代、吉田信雄、遠藤信子、住吉育代)▼福岡城東(中村善隆)▼壱岐(竹田頼正)

**[南部九州]**▼鹿児島西南(山中利雄)▼鹿児島南(井尻環、入枝利之、梅下美佐子、是枝久子)

(以上32クラブ、205名)

(第8回大会の様子は、三重大会専用ホームページ <https://ysprobus.jimdo.com/> から、ご覧いただけます)

## 理事就任の抱負

昨年(2018年)11月28日に三重県四日市市で全日本プロバス協議会第8回総会・三重大会が開催され、新執行部が誕生しました。常任理事8名、理事13名の計21名で、今後2年間会務を担当いたします。お名前は以下の通りですが、新理事の方々に抱負等のご挨拶の原稿をお願いしました。以下に掲載いたします。(古賀会長は除きました)  
(幹事長 松本忠)

### 新執行部の皆さん

(敬称略、カッコ内は出身クラブ名)

#### ◇常任理事

会長 古賀靖子(北九州)

副会長 山内和夫(旭川) 川端崇且(大阪)

島村吉三久(五所川原)

幹事長 松本忠(北九州)

会計 竹原英作(北九州)

監事 熊本國勝(奈良)、中村善隆(福岡城東)

#### ◇理事

馬場康博(旭川) 田中正子(五所川原)

須郷隆(浮き城) 中村昭夫(多摩)

岩城孝子(横濱) 正親睦弘(鎌倉)

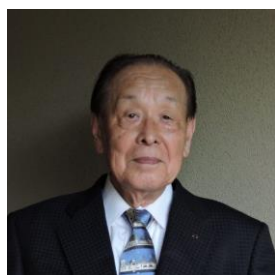
立川龍雄(新潟) 小丸隆(松任)

田口隆夫(鈴鹿西) 高田知昭(淡路)

内富烈(徳山) 伊藤雅敏(福岡城東)

山中利雄(鹿児島西南)

### ◇常任理事◇



### 露店の収益金で社会奉仕活動

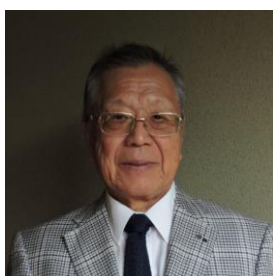
副会長 山内 和夫(旭川)

本年度の事業計画を拝見し、プロバスクラブの発展のためには必要なことと感じました。

これからプロバスクラブを発展させるためには、若手の会員を増やすことが必須であります。旭川プロバスクラブ会員は98名で内々は道議会議

員2名、市議会議員4名が入会しております。毎年8月上旬、96万人余の人出のある「旭川さんろく祭り」に露店を出しております。3日間会員の奉仕活動で収益金をあげ、これを社会奉仕活動に活用し、多大な貢献をしております。

他クラブでは月に1回の例会を開催し、各自が近況を発表し、昔話をして花を咲かせ90分で終わり。会則もなく、名簿もなく、決算もなし。ただ食事をし、酒を飲んで楽しくして15年継続している会もあります。これらの会を統一することは一考を要します。

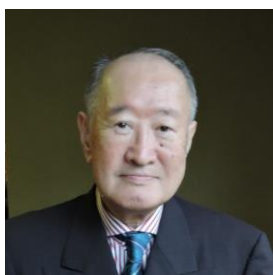


### より一層の交流と会員の拡大を

副会長 川端 崇且(大阪)

この度、全日本プロバス協議会副会長に就任致しました。もとより菲才未熟でその器でないことは自覚しておりますが、微力ながら誠心誠意努力いたす所存であります。

今年度は、今迄以上に全日本プロバス協議会の役目を果たす為の基礎づくりを行い、より一層会員の交流と拡大を計る為に、会員クラブの皆様方にご意見を頂き理事会に取り上げ、尚一層プロバスクラブの繁栄に務めたいと思っておりますので、ご協力とご支援を賜ります様よろしくお願い致します。



### 海を渡った巨大ねぶた

### 「立佞武多祭り」においでください

副会長 島村 吉三久(五所川原)

この度の役員改選で第9回総会開催担当の副会長として就任致しました、五所川原プロバスクラブの島村吉三久(よしさく)です。

当五所川原市は、「太宰治」と「立佞武多(たちねぶた)」のふるさととして知られております。これまでの総会時期は、11月が恒例となっているようですが、当地は「立佞武多祭り」に焦点を合わせて2020年8月開催とさせていただきます。

2020年は、折しも56年ぶりの東京オリンピックの年でもあり、開会中の時期と重なりますが、ブラジルのサンパウロ、フランスのパリと海を渡った巨大ねぶたの迫力を生涯の思い出としていただければ幸いです。





## 就任にあたって

幹事長 松本 忠(北九州)

この度、全日本プロバス協議会の幹事長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いがしています。これから2年間、ご協力をよろしくお願いいたします。

全日本プロバス協議会で何をすればいいのか、ずっと自問自答してきました。思い至ったのは、全国各地のプロバスクラブが元気になるようお手伝いすることではないかと。各クラブが元気になれば、所属するプロビアン1人ひとりの生きがいが高まり、会員数の増加にも結び付くのではないのでしょうか。

そのためには先ず、メールを使って情報や意見の交換を密にし、折に触れお会いすることだと思います。これから様々に意見交換することになるとと思いますが、学びあい、支えあう全日本プロバス協議会を目指したいと思います。



## 就任に際して

会計 竹原 英作(北九州)

北九州古賀会長の全日本会長就任に付随して、斯くなる仕儀と相成りました。固辞する方途もあったのですが、会長の熱気に押されました。しかも会計をやれと。初経験です。会計とは先ず正確を旨とすべきは自明のことですが、只収支を計算するのみならず、収入の可否や支出の是非についても検討して参りたいと思っております。

思えば今迄の当協議会は少額の会費で、活動も縮小せざるを得なかったようですが、自今これを多少改めて、会員の皆様に広く情報を提供して参る、そのコストとしてリーズナブルな会費を負担していただくとのコンセプトを持っております。

幸い私共北九州からは、全日本プロバス協議会に使命感を持つ会長のほか、諸事意欲的な松本氏が幹事長に入りました。老骨(小生)の出番が少ないことを願う次第です。



## 常任理事に就任して

監事 熊本 國勝(奈良)

近畿地区では昨年、滋賀県に全国で111番目のプロバスクラブであります「びわ湖大津プロバスクラブ」が大津ロータリークラブのご支援により設立され、7月度より31名の陣容でス

タート致しましたことが最大の出来事であり、喜びです。

人生 100 年時代と云われる超高齢社会に、“元気で、楽しく、活動できる場”が益々必要と思われるとき、プロバスクラブの存在価値は一層重要になってくると思われます。

そのためには、プロバスクラブの知名度を高め、活動をアピールする必要があり、又、近隣のクラブ及び会員同士の交流を深めることが大切だと思います。

そんな思いで、全日本プロバス協議会の運営に少しでもお役に立てますよう頑張ります。



### 常任理事に就任して

監事 中村 善隆(福岡城東)

わが国は、世界でも1、2を競う長寿国となりました。

65 歳以上の高齢者が 3557 万人と、人口の 28.1%を占める超高齢社会になりましたが、多くの人は、社会の第一線を

退いた後、どのような人生を送っているのでしょうか。

プロバスクラブは、こうした高齢者の拠りどころとして最も適したクラブではないでしょうか。プロバスクラブは、異業種交歓の場であり、それぞれの貴重な人生経験と知識を共有することで相互の親睦をはかり、快適な人生を創造しています。

このたび、常任理事(監事)を拝命いただきましたが、少しでもお役に立てますよう努力する所存です。

## ◇ 理 事 ◇



### ◇ 理事に就任して

◇ 理事 馬場 康博(旭川)

秋晴れの中、三重県四日市都ホテルで開催されました全日本プロバス協議会総会において理事に選任されました馬場です。私は理事就任は2回目で、再登板はないと思っていました

が、お声を掛けていただき光栄に思っております。

自分の所属しています旭川の情報発信し、また、各地のクラブの活動及び情報を探求し、自クラブにフィードバックして活動の活性化に努めていく所存です。皆様宜しくお願い致します。



## ヤッテマレッ！・・・てが!?

**理事 田中 正子(五所川原)**

新理事を仰せつかりましたが、プロバスクラブにおいても未熟者でございます。

そもそも、入会時のお誘いで「プロヴァンスクラブに入っ  
て！！」と聞き、何やら美味しいワインを飲む会と勘違いしての粗忽者でございます。  
この勘違いは、津軽平野西部に位置する地元の方々の「津軽弁」がもたらしたもので  
ございます。今となっては笑い話ですが、ワインのように熟成された「大人達」がまさに  
イイ味を醸し出している会でございます。

2018年4月7日の『10周年記念式典・祝賀会』では、大変お世話になりました。実  
行委員長を努めさせていただいたり、少しずつではございますがプロバスクラブに馴  
染んできたように感じます。

若輩者ではございますが、会長、先輩理事の方々よりご指導をいただきながら理事  
を努めさせていただきたいと思っております。併せて来年の「全日本プロバス協議会第九回  
総会青森大会」開催におきましても、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 理事に就任して

**理事 須郷 隆(埼玉浮き城)**

埼玉浮き城プロバスクラブの須郷です。今回渡邊栄一先  
輩の後を継ぎ理事に就任しました。よろしくお願い致します。

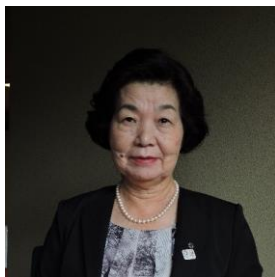
当クラブは、2011年6月、渡邊栄一初代会長のリーダー  
シップの下に創設され現在に至っています。月1回の例会に加え音楽会の開催や俳  
句等4つの同好会が活動しています。時折全日本協議会のあり方等についても論議  
をしていました。今回、初年度重点目標として「全日本の役割を果たす為の基礎作りと  
しての諸事項」を掲げましたが、正に当クラブで論議してきたことです。財政基盤の強  
化具体策については多少の異論もありますが、喫緊の課題であることは事実です。全  
日本としての体制作りにはしっかり対応しサポートしていきたいと思っています。



## 理事に就任しての抱負

理事 中村 昭夫(東京多摩)

前年度に引き続き新年度も理事を仰せつかりました。前年度は理事と会計監査を担当しました。全日本プロバス協議会の会計収入は会員クラブによる会費が大半で、年間16万円ほどの収入です。これでは本部としての活動を活発にするには費用が足りません。会員の会費増額という案も出ましたがそれよりも周辺にはプロバスクラブがない地域が数多くありますので、地元のロータリークラブとタイアップして新規プロバスクラブを設立して会員数を増やす活動を推進することがベターだと思います。これを今年度の重要テーマにしてはと思います。全国のプロバスクラブをブロック別にまとめブロック内の交流や情報交換を活発に行い各クラブのパワーアップを図ることを推進し、全日本プロバス本部としては各ブロックとの交流を密にしてこれに基づいて新たな企画を提案することができればと思います。



## 理事に就任して

理事 岩城 孝子(横濱)

理事を仰せつかりました岩城孝子と申します。どうぞよろしくお願い致します。私は2004年1月横濱プロバス倶楽部設立時からのチャーターメンバーとして活動して参りました。

常に“今 いま できること 一生懸命”をモットーに、全てに全力で取り組み「たのしい 和やかな ゆったりとした」どんな人も楽しめるクラブ作りを目指してきました。名幹事長と謳われた吉川哲朗さんが来横の折り「活発な意見交換をして貴重な知識や経験を皆に伝え、活力のあるプロバスを目指したい」と申され、親近感と共感を覚えました。「こちらから近づいて行けば山は限りなく近づいてくる」とも言われました。私はこの言葉を胸に理想の“輪、和”を広げていきたいと思っています。



## 理事就任にあたって提案

理事 正親 睦弘(鎌倉)

鎌倉プロバスクラブの正親(オオギ)です。理事として頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

ご提案された新体制の注力事項以外に一つ提案したい。各プロバスクラブにおける役員任期は、ロータリーの同1年を踏襲し、多くのクラブで1年になっています。施策の継続性を持たせ、着実に成果に結び付ける為、任期を複

数年にするよう奨励したらどうでしょうか(全日本プロバス協議会は2年でもあるし)。(常任)理事会で検討願いたい。



### 理事に就任しての抱負

**理事 立川 龍雄(新潟)**

新潟県には新潟、高田、柏崎と3つのプロバスクラブがあり、3クラブ合同委員会を持ち回りで行っていましたが、最近高田、柏崎両プロバスクラブが休眠状態です。来年度は新潟県で3プロバスクラブを再開し、活発な活動が出来るように願っております。

また、東日本交流会を今後も続けていけるように協力も致したいと考えています。



### 理事としての抱負

**理事 小丸 隆(松任)**

プロバスクラブ松任では、全日本の大会に毎回、10人前後参加することを恒例としている。全国大会に参加して、直に、全日本プロバスの動向や雰囲気を知ることは、その後のクラブの運営に得ることが多いからである。大会では全国の方々と交流や懇談ができるのも魅力であり、またその機会に開催地の周辺を巡る旅ができるのも楽しみである。旭川、神戸、横浜、北九州の各大会は、それぞれに持ち味を生かした有意義な大会となり、その際の旅行中の数々の楽しいエピソードは、後々まで語り草になる思い出となっている。

これからも引き続き理事として、皆様と連携し、情報交換を密にして、全日本プロバスと当クラブの橋渡しの役割を果たしていきたい。



### 理事に就任して

**理事 田口 隆夫(鈴鹿西)**

平成30年9月25日、東京での全日本プロバス協議会新旧理事会に参加し改めて三重県を代表し全日本協議会の理事として運営に携わる事に非常に責任を感じています。特に各クラブとも会員増にご苦労されていまして何か良い方法はないかと思案していますし、このクラブの組織拡大も必須と思います。

私どもの三重県は市部のみで14市あり、現在あるクラブは5クラブですから約3分の1の市部しか組織化されていません。全国的に見てもプロバスクラブのない県があり、

理事として今後各クラブの会員増、県内のクラブ増、クラブの無い他県の3つの案件に挑戦し、出来るだけ実現したいと思います。

三重県内の5クラブは年に1回、会長幹事会を開催し情報交換をしていますが、これも拡大し地区毎や全国規模の情報交換する場も考える必要もあると思います。在任の2年間ではすべては出来ないと思いますが、少しでも実現したいと思います。

最後に前回まで全日本協議会をリード頂いた会長クラブの横濱プロバス倶楽部の皆様に心からお礼を申し上げます。



### 青年の気持ちで！

理事 高田 知昭(淡路)

38年間勤めて定年を迎え、その後、嘱託として地域の事業所に通っていました。その時、「今度、地元でプロバスクラブを立ち上げるので、入会しませんか」と誘われ即座に入会を決めました。平成23年のことでした。

しばらくして、設立総会が開かれ、男性8名、女性12名の計20名で『淡路プロバスクラブ』がスタートしました。月1回の例会は、他のクラブと大きく変わらないと思いますが、会員卓話、外部卓話そして移動例会等趣向を凝らして行っています。また、兵庫県の交流会は勿論、近畿の交流会にも積極的に参加してきました。

会員は各々これまでの職業が異なり、経験や立場が全く違うので卓話も興味津々です。和気藹々の中で、全員の気持ちは若く例会の中身が濃い内容なので月1回ですが楽しみにしているように感じます。「楽しくなければプロバスクラブではない」「若さは気持ちのもちょうである」「何事にも好奇心をもとう」等20名の会員全員が青年の気持ちで活動しています。



### 理事就任にあたって

理事 内富 烈(徳山)

去る平成26年12月、北九州プロバスクラブ創立15周年記念行事に、私が徳山プロバスクラブの会長代理として出席させて頂いた時の、その行事内容、規模の大きさ等、全てに圧倒された記憶が思い出されます。

古賀会長のスケールの大きさと、プロバスクラブに対する思い入れの強さを感じさせられたものでした。

この度北九州プロバスクラブが会長クラブに内定した新体制を聞くにつけ、非常に心強く思うと同時に新理事として我がクラブ内で余程リーダーシップを発揮しないと責任を果たせないと思っております。

まずは我がクラブ内での意思統一を図る必要を感じております。

私共はローカルな地方の小都市のクラブです。必ずしも全国プロバスクラブ組織の意義を会員の皆さんが理解しているとは思えません。まずその必要性を理解してもらえような情報提供が必要だと考えます。今、我がクラブの最大の問題点は会員の減少です。併せて克服したい気持でおります。どうぞよろしくご教示ください。



### 新理事に就任して

**理事 伊藤 雅敏(福岡城東)**

北部九州プロバス協議会は、長崎県の壱岐プロバスクラブと福岡県の福岡城東、みやこ、北九州、田川、小郡プロバスクラブの6クラブが平成13年4月より、毎年、春と秋に交流を続け

て17年が経ちました。

現在、4クラブに減りましたが、福岡城東プロバスクラブが北部九州プロバス協議会の会長を務めておりますので、このたび、理事をさせていただくことになりました。皆様のお力になれるよう務めさせていただく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



### 理事就任にあたって

**理事 山中 利雄(鹿児島西南)**

鹿児島西南プロバスクラブは、それぞれの職域の責任ある立場にあった人など、共に同じ環境にある人たちの集いの場として、平成11年7月11日に発足しました。

現在までの活動として、覚せい剤シンナー乱用防止キャンペーンに参加しています。また近くの特別老人ホーム施設へ、三味線を交えた演芸を披露して、特老の方々に喜んでもらっています。

このような次第で、この度全日本の理事に拝命されましたが、微力ながらお力添えできたらと思う次第です。何分よろしくお願いたします。

## 退任理事のご挨拶

昨年 11 月の全日本プロバス協議会第 8 回総会・三重大会で、これまで会の発展に御尽力いただきました理事の 12 名の方々が退任(うち1名は死亡退任)されました。お疲れ様でした。これまでのご努力に心より感謝いたします。

会長を退任されました中村實様に退任理事の方々を代表してご挨拶をいただきましたが、他の理事の方々にも新執行部へのご意見、ご助言等のご挨拶をお願いしました。以下、紹介いたします。

(幹事長 松本忠)

### 退任された理事の皆さん

(敬称略、カッコ内は出身クラブ)

#### ◇常任理事

会 長 中村 實(横濱)

副会長 立川富美代(八王子)

幹事長 森山 功(横濱)

副幹事長 小磯智功(横濱)

#### ◇会計監査 武智 昭(鎌倉)

理事 渡邊栄一(浮き城) 後藤一郎(日野)

青木伊平(横濱) 松尾 正(三重・九華)

永勝龍子(尼崎) 今西良雄(徳山)

(注)なお、理事だった迫田修様(鹿児島南)は昨年 10 月、死亡退任されました。

## 退任にあたって思うこと

### 会長 中村 實(横濱)

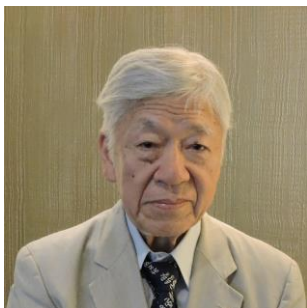
人により、場合により異なる答えは当然だが、4年の時の流れは永いのか、短いのか。

北は北海道旭川から、南は長崎県壱岐までの間、点在するクラブをお訪ねして回った私にとってはとても短く感じられた。

各クラブでは会員諸賢が、これまで培ってこられた知見や素晴らしい体験を惜しみなく捧げられ、地域社会への貢献に尽力されておられる実情に触れることができた。

4年間に 111 か所ものクラブを訪ね切ることは到底不可能なことである。

クラブ数をもっとふやしたい、1クラブ当たり年会費 3000 円をもっと増額し





てほしい、日本国内のみならずプロバスクラブ発祥の地にも訪れたい、積み残したことは数多い。

加藤武氏（横濱倶楽部）の急逝を受けて会長代行として尽くされた立川富美代氏にしても想いは同じことであったと思う。全国のクラブが、またその会員諸賢が私共の積み残した事業を少しずつでも解決に運んでいただくことを願う。

全国のクラブの会員諸賢が各々の地域に在って、各々の目的を達しつつ、他国のクラブとも手を取り合って、それこそ世界平和に邁進して下さることを心から念ずる。難問山積のまま、後を託す古賀靖子会長や北九州クラブの各位にも感謝しつつ、好きな漢詩を記してご挨拶としたい。

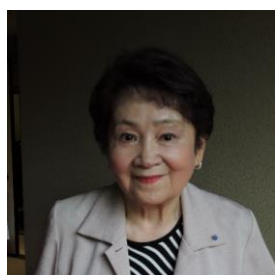
### 静夜思 李白

牀前看月光

疑是地上霜

挙頭望山月

低頭思故郷（私にとっての故郷とはプロバスクラブ）



### 退任のごあいさつ

前副会長 立川 富美代(東京八王子)

新年あけましておめでとうございます。

全日本プロバス協議会の皆様、新しい年をご健勝にお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

2002年5月、全日本プロバス協議会創立総会大阪大会に於いて選ばれて以来16年、主に東日本を担当いたします副会長を務めて参りましたが、昨年8回総会に於きまして退任をいたしました。

初代故中村会長、故岩崎副会長、故2代目吉川幹事長と共に、全日本プロバス協議会の黎明期を手探りで走りました。今までにない新しい組織に戸惑い、それでも全国のプロビアンに情報を発信し、収集し、少しでも開かれた全日本、分かりやすい全日本、参加したい全日本とすることに務めました。総会も8回を重ね、全日本は少しずつ浸透して参りましたが、まだまだ全国のプロビアンに行き届いてはおりません。

今後は1人でも多くのプロビアンが全日本プロバス協議会を理解し、協力し合い、よりよい組織に育って行くことを期待いたしております。

16年に亘りましてご指導を賜りましたことを心から感謝いたします。



## 退任のご挨拶

前幹事長 森山 功(横濱)

吉川哲朗幹事長から幹事長のバトンを受け、はや6年の歳月が過ぎました。無事役目を果たせたのは、一重に全国の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。なかでも吉川哲朗幹事長、加藤武会長、立川富美代会長代行・副会長、中村實会長様には実に多くの事を教えて頂きました。このような素晴らしい先輩に巡り会えたのもプロバスとの出会いがあったからであります。また、幹事長としての最高の幸せは、何と言っても古賀会長、松本幹事長にバトンタッチが出来た事であります。これまでの殻を破って、大きく羽ばたいて行く雄姿を思い浮かべる事が出来るからです、全日本プロバス協議会の飛翔期を担う新執行部の発足を心からお慶び申し上げ、退任のご挨拶といたします。



## 理事を退任して

前理事 松尾 正(三重・九華)

一昨年北九州に於ける総会にて、次は三重だよとのご指名をお受けしました。そして昨年奈良での理事会に於いて三重は小さな五つのクラブが力を合わせて総会を開催させて頂くという事を発表させて頂きました。その後全日本プロバスの役員の方々にアドバイスを受け乍ら、五つのクラブが会合に会合を重ねてやっと11月28日総会を迎えました。理事も無事終わることが出来ましたのは、皆様のご協力のお陰と感謝しております。有難うございました。会の益々のご発展を祈念しております。



## 近畿地区理事・感謝感動日々

前理事 永勝 龍子(尼崎)

2006.12.9 全日本プロバスクラブ近畿地区大会・神戸市開催を尼崎市で開催。中村健初代会長直々のご鞭撻！永勝幹事は、全身全霊で時間を架けて準備した。才女美しい市長挨拶を依頼し、大賛辞！北海道馬場理事・東日本立川理事今を支える面々との掛け替えなきホスト！又、京都 PC との姉妹提携には、交流の礎となってきた。会長就任と同時に、近畿地区理事拜命の栄を戴いた。初年度、野村全日本副会長企画の下、「近畿地区プロバス交流会」司会進行・会長発表等大活躍！毎年開催の「兵庫県プロ

バス交流会」では、大局的視野に立ち、講師に「日本にプロバスクラブ第1号を、兵庫県上郡に導入された 2680 地区ガバナー内藤尚武様」に講演を依頼し、原点に立って学び、支援的な参加をしている。「プロバスの市民権を得てこそ、真のプロバスになれる。」このご指導にどう応えるか。

今年、「全日本プロバス交流会」を、姫路2クラブで開催。両者が調和あるホストクラブとして、有意義な開催を念じている。

## 全日本の発展を祈念します

前理事 今西 良雄(徳山)

全日本プロバス協議会中国ブロックは、福山プロバスクラブと徳山プロバスクラブの2クラブだけが参加しているのみであり、ブロックという意識はなく、またプロバス協議会からの情報は少なく、当クラブ単独として行動しているのが現状であります。

新年度の重点目標は大いに賛成です。中でも全日本プロバス協議会二ユースを隔月に発行されるのは情報の共有化が図られ、全体の意識、理解が向上していくのではないかと思います。年会費向上率にも繋がるのではないのでしょうか。古賀会長のバイタリティーと統率力で推進される事を大いに期待するものであります。

この度、小生2期4年間の理事を退任致しましたが、全日本プロバス協議会の繁栄、発展を祈念いたします。(今西様は写真掲載をご辞退されました)



## 会員クラブからのお知らせ

### 奈良プロバスクラブが創立5周年

奈良プロバスクラブ(熊本國勝会長、37名)が創立5周年を迎えることとなり、2月17日、奈良市三条本町のホテル日航奈良で記念式典・祝賀会を開く。

同クラブは2014年1月に奈良ロータリークラブの提唱で、国内104番目のクラブとして発足。現在は“常に青春”をテーマに、超高齢社会を楽しく、ポジティブに生き、活動しているという。

式典・祝賀会は実行委員会(福井勝治委員長)で準備を進めており、問い合わせは同クラブ事務局(電話0742-71-1889、FAX0742-71-6086)へ。

### 近畿ブロックが交流会開催

第9回近畿プロバスクラブ交流会が6月12日、兵庫県姫路市南駅前町のホテル日航姫路で開かれる。

交流会は、近畿ブロック14クラブと、兵庫県内22クラブ(全日本協議会未加入クラブも含む)で毎年開催しており、今年は姫路南プロバスクラブ(浅江季典会長)と姫路プロバスクラブ(松本一之会長)の共催。両クラブですでに大会準備を進めており、第1部は交流会と記念講演、第2部は懇親会を予定している。会員クラブへの案内状発送は1月の予定。

# 事務局だより

## 全日本協議会の顧問に3名を委嘱

古賀靖子全日本プロバス協議会会長は、2019年(平成31年)1月1日付けで次の3名を同協議会の顧問に委嘱しました。

☆この4年間にわたって全日本会長の重責を担われた中村實様(横濱)

☆全日本協議会発足時から14年間理事あるいは常任理事としてご尽力され、平成25年11月から1年間、加藤会長死去に伴って会長代理を務められた立川富美代様(八王子)

☆過去6年間全日本幹事長として全国を回って会の運営にご尽力された森山功様(横濱)

会則第5条第2項「必要に応じて顧問(若干名)をおくことができる。会長が任命する」に基づいたもので、顧問は会長の相談役として全日本協議会の発展に引き続き貢献していただきます。任期は特に設けられておりません。

## 賛助会員を募集します

全日本プロバス協議会本部は1月から、賛助会員の募集を始めます。

賛助金の募集はこれまで、必要に応じて行われていましたが、昨年11月28日の第8回総会で「賛助会員制度設置内規」(案)が採択され、制度化されました。賛助会員の募集はこれに基づいて行われるもので、募集内容は下記の通りです。

特に、常任理事、理事の皆さんは全員、それに全国の会員クラブ、プロビアン(いずれも有志)にも出来るだけご協力いただきたいと思います。そして、常任理事、理事の皆さんや各会員クラブは、プロバスクラブの活動にご理解のある企業やロータリークラブ等の各種団体に協力を働き掛けていただくようお願いいたします。

### 記

目的 賛助会員は協賛金を拠出することにより、全日本プロバス協議会の運営と発展に寄与する。

対象 賛同する個人及び企業、団体等

賛助額 1口1万円/年。(但し、10口以上納入した個人は永久賛助会員とする)

特典 (1)全日本プロバス協議会主催の総会、懇親会、各種イベントへの案内状を送付する。

(2)全日本プロバス協議会発行の機関紙誌で紹介する。

(3)全日本プロバス協議会発行の機関紙誌を送付する。

## 今後の主なスケジュール

◎全日本プロバス協議会常任理事会

日時:2019年5月29日(水) 開催時間未定

場所:ホテルアルモニーサンク

〒803-0814 福岡県北九州市小倉北区大手町12-3

電話 093-592-5401

◎全日本プロバス協議会理事会

日時:2019年9月30日(月) 開催時間未定

場所:東京を考えていますが、未定です。

## 全日本協議会の事務局が発足しました

全日本プロバス協議会の活動を支える事務局が昨年2018年(平成30年)12月2日、全日本協議会本部のある北九州プロバスクラブ内に発足しました。メンバー(幹事)は下記の6名です。メンバー全員が共通認識のもと諸事務を一致協力して推進してゆこうという趣旨で事務局長等は設けておりません。

	名前	事務局内役割	北九州プロバスクラブ肩書
幹事	古賀 靖子	統括、人事、組織	会長
〃	松本 忠	運営	副会長
〃	竹原 英作	会計	副会長
〃	中山 正英	総務	幹事長
〃	安高 洋一	広報	広報委員長
〃	住吉 育代	庶務	事務局次長

以下は事務局幹事からのご挨拶です。

(古賀靖子は本誌2ページ、松本忠と竹原英作は同9ページに掲載済み)

### 総務担当幹事 中山正英



昨年12月2日発足の全日本協議会本部事務局で総務を担当することとなりました。当協議会をより一層、充実拡大させるにはどうすればよいかを念頭に置いて活動し、その活動が喜びに昇華することを願っているところです。事務局幹事全員が一致協力して参りますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。



#### 広報担当幹事 安高 洋一

高齢社会の中で第二の人生をどう過ごすか。プロバスクラブの役割は大きくなっていると思います。全国で活躍するプロビアンを紹介、情報を共有できれば幸いです。ぜひ、情報をお寄せ下さい。



#### 庶務担当幹事 住吉 育代

このたび、全日本プロバス協議会の事務局庶務担当を任せられました。私は入会して日も浅く、わからないことも多くて、うまく務められるか不安ですが、他の幹事の方々のご指導の下、精一杯頑張りたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

### 事務局からのお願い

- ◎全日本プロバス協議会の窓口になる担当者(全日本担当者、広報担当者等＝メールを出来る方)を決めていただければ助かります。
  - ☆会員クラブ宛の各種文書類を、その担当者宛に送信(郵送)いたします。
- ◎会員クラブ内の人事異動等がありましたら、その都度、事務局へ連絡をお願いいたします。
  - ☆全日本プロバス協議会ひろば、全日本プロバス協議会ニュース等で広報いたします。
- ◎各クラブ及びブロック等で周年行事等を予定しておれば連絡ください。
  - ☆全日本プロバス協議会ひろば、全日本プロバス協議会ニュース等で広報いたします。
- ◎その他、「ひろば」や「ニュース」の材料となる話題等がありましたら、メール等で事務局へ連絡をお願いいたします。

## あしがき

- ◆新執行部が昨年12月2日に発足、常任理事、理事向けの「持ち回り理事会」をすでに2回開催しました。会員クラブ向けの初仕事は「全日本プロバス協議会ひろば」第1号の制作。今回、全国のプロバスクラブ等にお送りできたことは、喜ばしい限りです。
- ◆発行できたのはやはり、第8回総会・三重大会開催を担っていただいた三重大会実行委員会や前執行部の皆様の全面的なご協力があったためです。原稿だけでなく、写真などの提供も受け、とても助かりました。
- ◆それに、新旧理事の皆さん方の「ご挨拶」の原稿も、全員というわけにはいきませんでした。多くの方に寄せていただき感謝しています。しかし、現理事の皆さんからは全員原稿を出していただき、今後の全日本協議会の運営にも心強く感じています。
- ◆とは言え、この「ひろば」は素人による全くの手作りです。まだまだ未熟で、改善の余地は多いと思われ、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。そしてまた、様々な企画を掲載していきたい、ご提案もよろしく願いいたします。

(幹事長 松本 忠)

全日本プロバス協議会

会長 古賀 靖子

〒804-0014 北九州市戸畑区土取町1-3

携帯電話 090-3607-6618

Email : [kogaya35@r4.dion.ne.jp](mailto:kogaya35@r4.dion.ne.jp)

事務局

〒807-0814 北九州市八幡西区貴船台13-15

住吉 育代方